

## 情報ライブラリーで知を発掘 本との出会いを応援する「biblive」

CASE 01 プロジェクト学習テーマ  
biblive: 情報ライブラリーでの  
体験の記録・共有支援



実体験を通じて得た  
知見や技術は  
あなたの将来に必ず役立つ

プロジェクト学習  
他学科・コースの学生とチームを  
組んで課題を達成する中で、「正  
解」のない実社会の問題に挑む  
実践力を身につけます。

VISION 2  
実践的教育

「自分たちが利用する情報ライブラリーを自分たちの手でもっと面白くしたい」という思いをひこくに、12人のメンバーが集まったbiblive。3つのグループに分かれて、新しい本との出会いを広げるシステム開発に挑戦しました。

制作のヒントになったのは、すでに情報ライブラリーにある情報でした。例えば、biblive searchグループは、タブレットに表示される他の利用者の足あとと移動経路をたどりながら、自分では思いもよらなかったような棚めぐりを楽しむ新ガイドシステムを制作(図①)。タブレットを置く「足あと取得カート」を作り、自分の足あとを残すことも可能になりました。

biblive streamグループは返却棚に注目し、返却された本の集まりから「この本を借りた人は同時にこんな本も借りている」という未来大生の

傾向を読み取り、他の人も共有できるシステムを開発。biblive streamグループではライブラリストリートビューを作り、棚にある教員の推薦本を仮想空間上で効果的にクローアップ。いずれも館内に眠っていた情報に新たな光を当てることで、本探しの楽しさを深めるアイデアをシステムとして実現しました。

リーダーの山本貴文さんは「各グループとも時間に追われましたが、全員の力を合わせたからこそ出来た。将来的には僕らが作ったシステムをベースに、より完成度を高めて、実際にbibliveを情報ライブラリーに導入してもらえたら嬉しいです」と話し、夢の実現に期待を膨らませています。



12月の最終発表でのプレゼンテーション



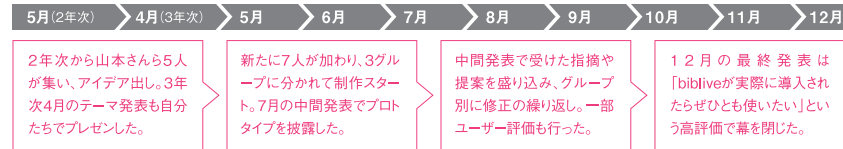
足あとを選ぶ  
過去にライブラリーを歩いた人たちの情報が足あとの形で表示。任意の足あとを選んでライブラリー内を移動。



足あとに沿って歩く  
システムに記録されている他人の足あとに沿ってライブラリーを歩かせることで、本を探さすけかけ。

図①: biblive search  
「思いがけない本を見つけるためのシステム」

### スケジュール



## 未来大関係者約220人にアンケート 最適な移動手段を探る新システム

CASE 02 プロジェクト学習テーマ  
函館の未来を拓くトランスファー



学生に対する10分程度のアンケート調査の様子



図①: 新入生向けに最適な移動手段を診断する生活情報提供サイト「FUN-DAYS」。診断の結果から、ユーザーが参考にできそうな先輩情報を表示。どんな生活をしてきたか、未来大生の「生の声」を伝える。



図②: 車を持っていない未来大生が、車を持っている未来大生に「相乗りさせて」と簡単に依頼することができるアプリ。

「トランスファー」、移動という大きなキーワードを手がかりに、自分たちの手で解決すべき問題を発見するところから取り組んだメンバーは全部で9人。話し合いの末、「未来大関係者は大学までどのような移動手段を使っているか」に着目し、大学関係者220人近くにアンケートや個別の聞き取りを行いました。

調査結果によると、車を持っていない未来大生のうち約7割が「車が欲しい」と回答し、バスや自転車の方が適している可能性があるにも関わらず、漠然と車を選択するなど、「車依存思考」が明らかになった。そこで、リーダーの山本貴文さんらメンバーは自動車にとらわれず徒歩・バス・自転車等の幅広い選択肢の中

で、新入生向けに最適な移動手段を診断する生活情報提供サイト「FUN-DAYS」(図①)や、学生間で自動車の相乗りを支援するAndroidアプリ「Hacobi」(図②)を制作。最終発表では、通信機能付きのデモ版や完成度の高いパネルを披露し、未来大生のトランスファーを見直すきっかけを提示することができました。



教員に対してインタビューを行っているプロジェクトリーダー山本貴文